

# 住民アンケート報告書

平成28年3月

内閣府政策統括官（原子力防災担当）

## 目 次

1. 原子力総合防災訓練のアンケート実施概要.....	1
2. アンケートの目的.....	1
3. アンケート回答者の属性.....	1
4. アンケートの分析.....	1
4. 1 アンケートについて.....	1
4. 2 アンケートの分析方法.....	2
4. 3 アンケート結果の分析及び改善提案.....	2
4. 4 自由意見についての分析及び改善提案.....	9
5. 総評.....	10

### 1. 原子力総合防災訓練のアンケート実施概要

- 実施日時：平成27年11月9日（月）
- 実施場所：避難所他
- 対象者：伊方町、八幡浜市の訓練参加住民
- 回答人数：203名（内訳：伊方町170名、八幡浜市33名）

### 2. アンケートの目的

本年度実施された原子力総合防災訓練において、参加者アンケートを行い、これらの結果を分析のうえ改善策を検討し、今後の訓練に役立てることを目的として実施した。

### 3. アンケート回答者の属性

回答者の住まいは、「伊方町」が84%、「八幡浜市」が16%の構成であった。

回答者年齢は、「60代以上」が46%、「40～50代」が30%であり、40代以上が75%以上を占めた。

回答者の性別は、「男性」が62%、「女性」が7%であり、女性の参加が少ない傾向が見られた。

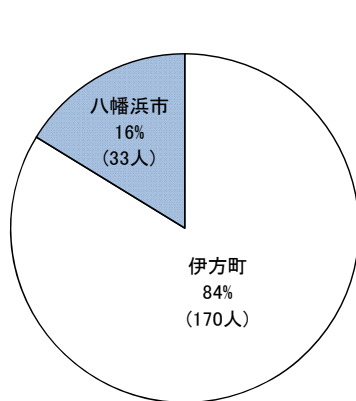


図 3-1 回答者の住まい

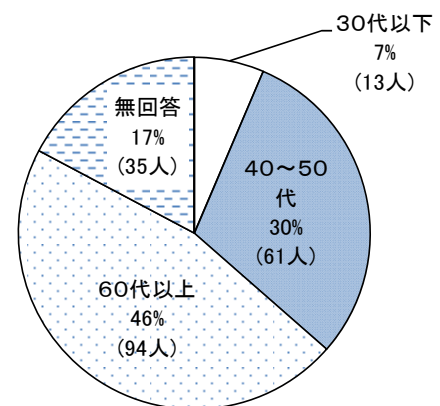


図 3-2 回答者の年齢

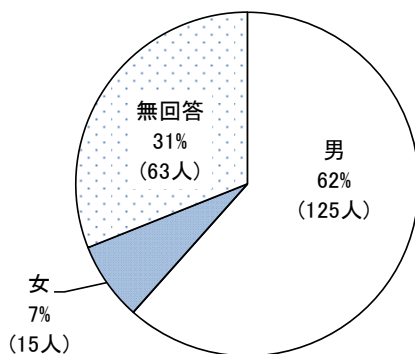


図 3-3 回答者の性別

### 4. アンケートの分析

#### 4. 1 アンケートについて

アンケートは、記入しやすさを考慮し、項目毎に達成度を選択肢から選択する方式とし、否定的な回答に対してはその要因の選択と自由記載により原因を特定しやすくする方法をとっている。アンケートの評価選択肢は、肯定側に「十分」と「概ね」、否定側に「一部」と「まったく」で構成される。

また、自由意見記載欄を設け、回答者の意見、感想等を吸い上げることとした。

#### 4. 2 アンケートの分析方法

(1) 選択式の設問については集計結果をもとに実施した。

アンケート結果を肯定側（「十分」＋「概ね」）、否定側（「一部」＋「まったく」）に分類し、否定的な回答割合が10%を超える項目は、「改善の必要有り」として分析を行った。なお、この数値に統計的根拠はないが、十分に高い目標値であると考えられる。

(2) 自由意見については、意見の内容に基づき分類、集約して分析した。

#### 4. 3 アンケート結果の分析及び改善提案

アンケートの選択項目の集計結果をまとめたものを表1に示す。否定的な回答割合が10%以上のものについて、強調表示とした。

表1 アンケート集計結果まとめ

No.	設問	回答割合	
		肯定的	否定的
1	(1) 避難計画 愛媛県広域避難計画を知っていますか？	84.7%	<b>10.3%</b>
2	原子力災害時、あなたの避難方法を知っていますか？ (一時集結場所・避難先・避難ルート等)	93.6%	2.5%
3	伊方町PAZ・予防避難エリアについて知っていますか？	72.4%	<b>23.2%</b>
4	住民広報（発電所の情報、避難指示など）は確実に伝わりましたか？	90.6%	1.5%
5	避難指示などは何により知りましたか？	—	—
6	避難はスムーズに行えましたか？	90.7%	5.4%
7	(2) 一時集結所の運営 一時集結所の運営は適切でしたか？（職員の対応含む） (伊方中学校・瀬戸総合体育館・三崎総合体育館・神山小学校)	85.2%	<b>10.9%</b>
8	(3) 避難所の運営 避難所の運営は適切でしたか？（職員の対応含む）	84.7%	<b>10.8%</b>
9	屋内退避は適切に行えましたか？	83.3%	5.9%
10	一般災害の対応も含めて何日分の食料・飲料等を準備していますか？	—	—
11	安定ヨウ素剤の配布、服用は適切に行えましたか？	82.3%	4.9%
12	避難退域時検査の運営は適切でしたか？（職員の対応含む）	77.8%	6.9%
13	(4) 一時移転 今一時移転は適切に行えましたか？ (八幡浜市の方で一時移転された方のみ対象)	72.7%	<b>15.2%</b>
14	(5) 有事の際の対応 今回の訓練を体験して避難は確実にできると感じましたか？	68.0%	<b>22.2%</b>

アンケート集計結果(表1)で、否定的な回答割合が10%を超える以下の6項目についての分析結果を示す。

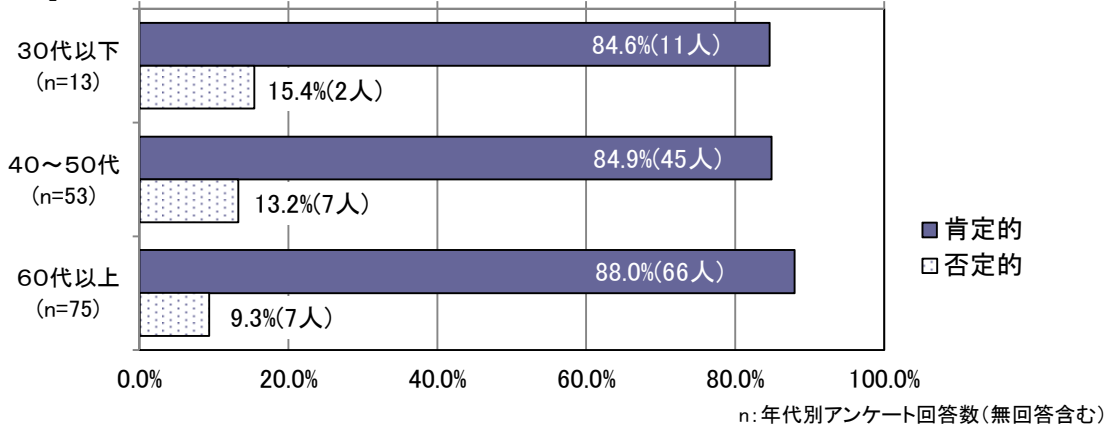
- |            |                    |              |
|------------|--------------------|--------------|
| (1) 広域避難計画 | (2) 伊方町PAZ・予防避難エリア | (3) 一時集結所の運営 |
| (4) 避難所の運営 | (5) 一時移転           | (6) 有事の際の対応  |

(1) 広域避難計画

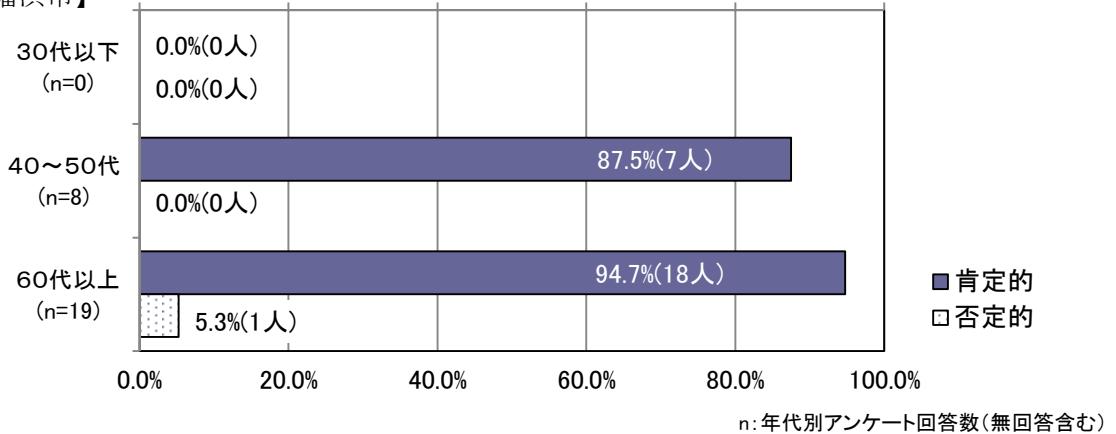
地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-1 に示す。  
伊方町の否定的回答の割合が高い傾向になっている。

図 4-1 地区および年代別の肯定的、否定的回答割合

【伊方町】



【八幡浜市】



本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。  
上記の結果から判断した課題および改善策を表 4-1 に示す。

表 4-1 広域避難計画に関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	愛媛県広域避難計画を知らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>広報活動による住民への周知</b> 様々な広報手段（資料配布、HP、TV 等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。</li> <li>・ <b>説明会の開催</b> 住民に理解していただくために、地区毎の説明会の実施を推奨する。</li> </ul>

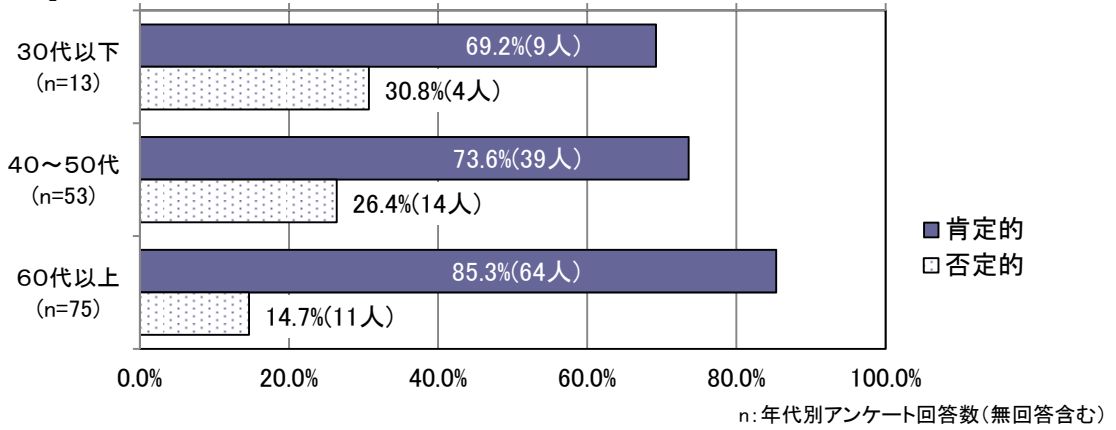
(2) 伊方町 P A Z ・ 予防避難エリア

地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-1 に示す。

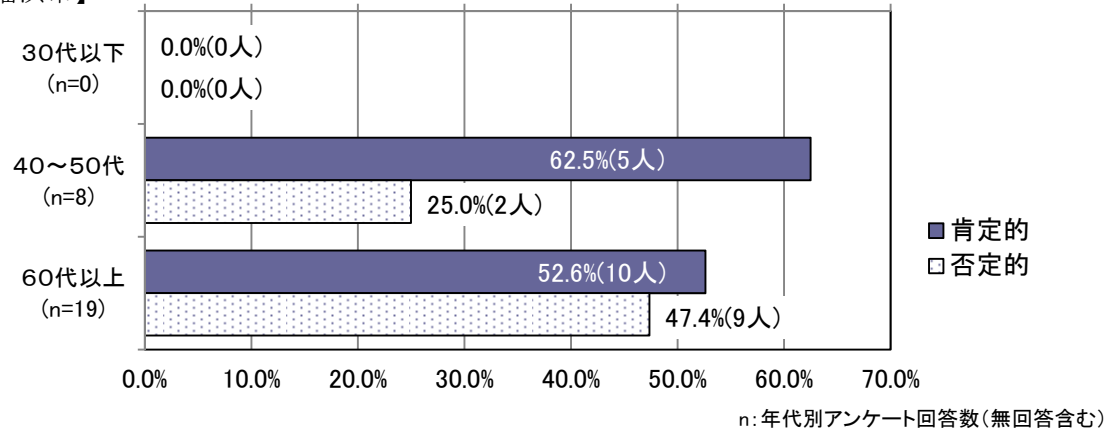
八幡浜市の 60 代以上の否定的回答の割合が非常に高い結果になっている。

図 4-2 地区および年代別の肯定的、否定的回答割合

【伊方町】



【八幡浜市】



本設問については、自由記述がなく分析ができないため、結果のみの記載とする。

上記の結果から判断した課題および改善策を表 4-2 に示す。

表 4-2 伊方町 P A Z ・ 予防避難エリアに関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	伊方町 P A Z ・ 予防避難エリアを知らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動による住民への周知 様々な広報手段（資料配布、HP、TV 等）により、広く住民へ周知していくことを推奨する。</li> <li>・ 説明会の開催 住民に理解していただくために、地区毎の説明会の実施を推奨する。</li> </ul>

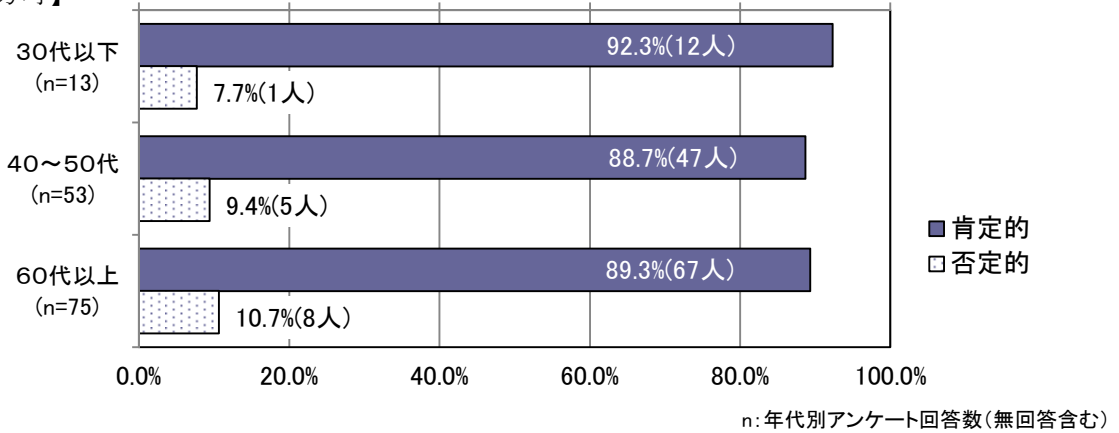
(3) 一時集結所の運営

地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-2 に示す。

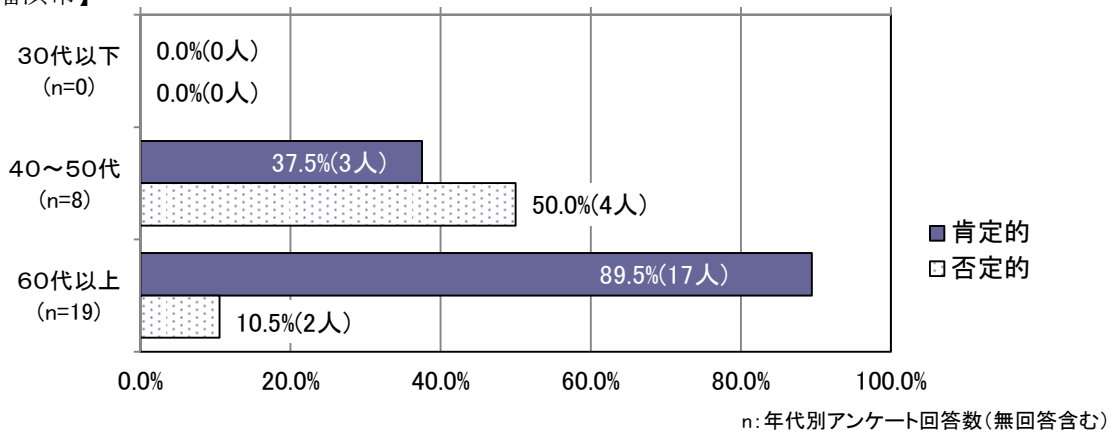
八幡浜市の 40～50代の否定的回答の割合が高い傾向になっている。

図 4-3 地区および年代別の肯定的、否定的回答割合

【伊方町】



【八幡浜市】



主な否定的意見を以下に示す。

- ・ 想定時間より早く来た場合の臨機応変の対応ができてない。(伊方町)
- ・ 行政、消防団、各種の役割があやふやで、全体がとまどっていた。(伊方町)
- ・ 声が小さく、説明がよく聞き取れなかった。(八幡浜市)
- ・ 説明の音が聞こえにくい。マイクの準備を。(八幡浜市)

これらの否定的な意見から判断した課題および改善策を表 4-3 に示す。

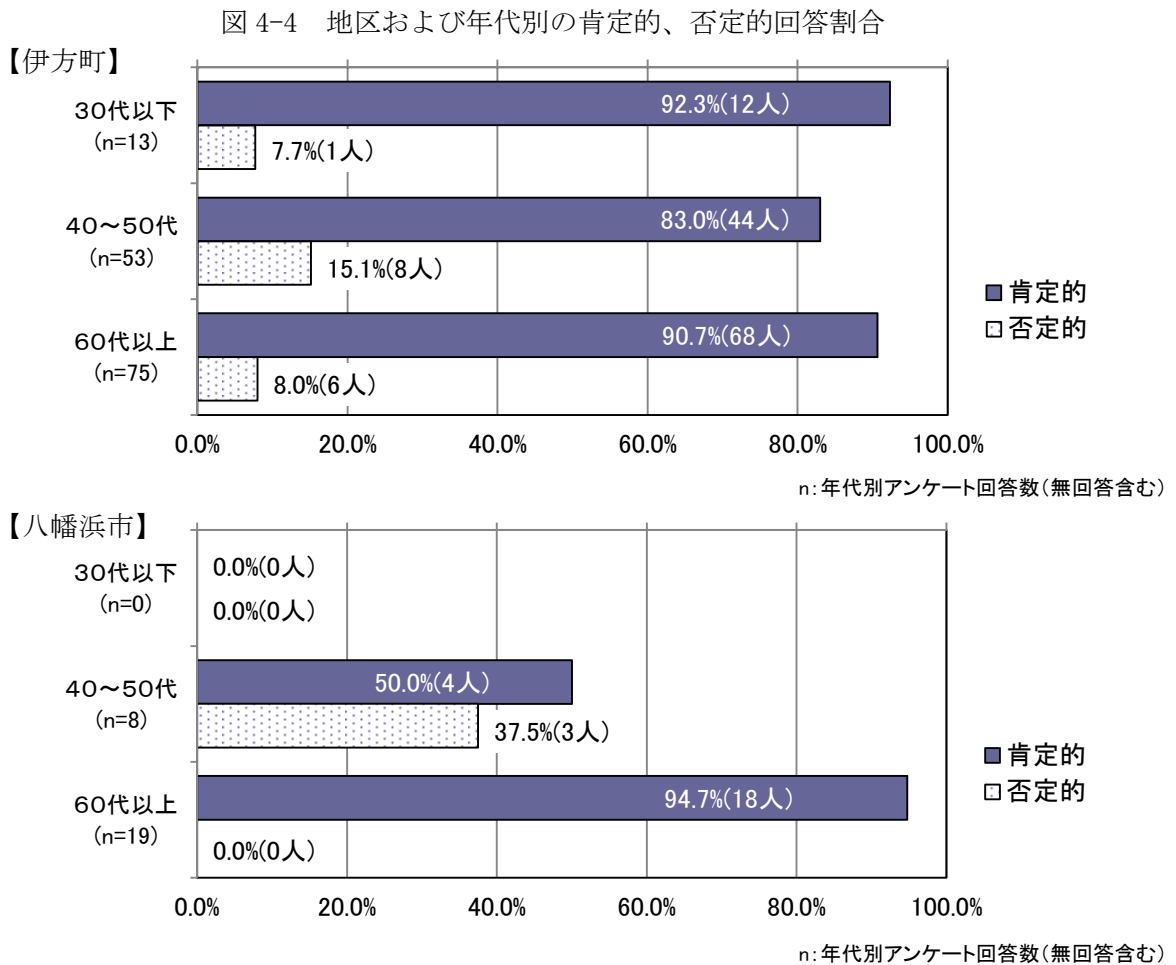
表 4-3 一時集結所の運営に関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	職員の対応 (役割が決まっていない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>運営マニュアルの策定</b> 一時集結所の運営マニュアルを策定し、役割を明確にすることを推奨する。</li> <li>・ <b>訓練・教育・研修の実施</b> 継続的に訓練・教育・研修を実施し、対応能力を高めることを推奨する。</li> </ul>
2	一時集結所の設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>設備の充実</b> 一時集結所に必要な設備の洗い出しを行い、必要な設備を設置することを推奨する。</li> </ul>

(4) 避難所の運営

地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-4 に示す。

伊方町、八幡浜市ともに 40～50 代の否定的回答の割合が高い傾向になっている。



主な否定的意見を以下に示す。

- ・避難住民に対しての案内等の不足。各場所に災害情報、避難情報、気象情報がリアルタイムに流れるディスプレイなど設置すべき。(伊方町)
- ・取材の方が多く、落ちつかなかった。(伊方町)
- ・屋外での時間が多すぎる。(伊方町)

これらの否定的な意見から判断した課題および改善策を表 4-4 に示す。

表 4-4 避難所の運営に関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	避難住民に対する情報提供が不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運営マニュアルの策定</b> 避難所の運営マニュアルを策定し、住民に提供する情報等を明確に定義することを推奨する。</li> <li>・<b>設備の充実</b> 情報提供に必要な設備を設置することを推奨する。</li> </ul>
2	避難住民に配慮した避難所の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>運営マニュアルの策定</b> 避難所の運営マニュアルを策定し、運営を標準化することを推奨する。</li> <li>・<b>訓練・教育・研修の実施</b> 継続的に訓練・教育・研修を実施し、対応能力を高めることを推奨する。</li> </ul>



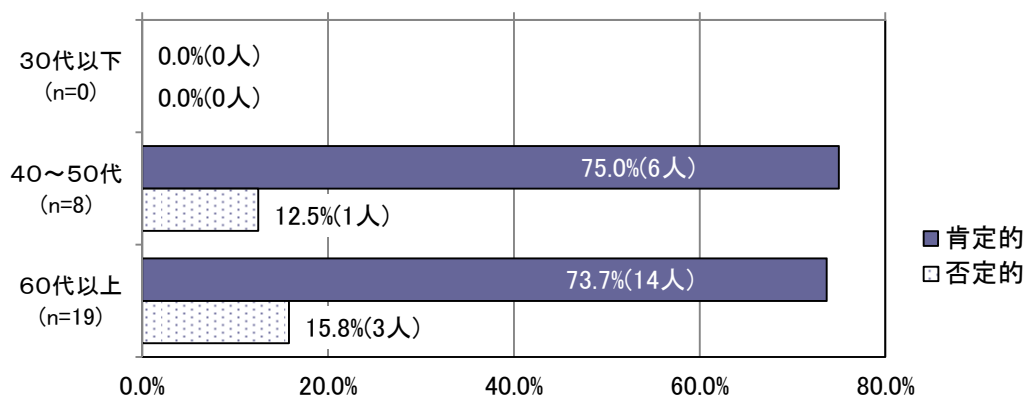
(5) 一時移転

地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-5 に示す。

40～50代、60代以上の否定的回答の割合が高い傾向になっている。

図 4-5 地区および年代別の肯定的、否定的回答割合

【八幡浜市】



n: 年代別アンケート回答数(無回答含む)

主な否定的意見を以下に示す。

- ・連携不足で時間が無駄になっていたと思う。(伊方町)
- ・屋外でバスを待ったため。(八幡浜市)

これらの否定的な意見から判断した課題および改善策を表 4-5 に示す。

表 4-5 一時移転に関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	避難住民に配慮した一時移転の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画の見直し</li> </ul> 避難者に配慮した一時移転計画の見直しを推奨する。

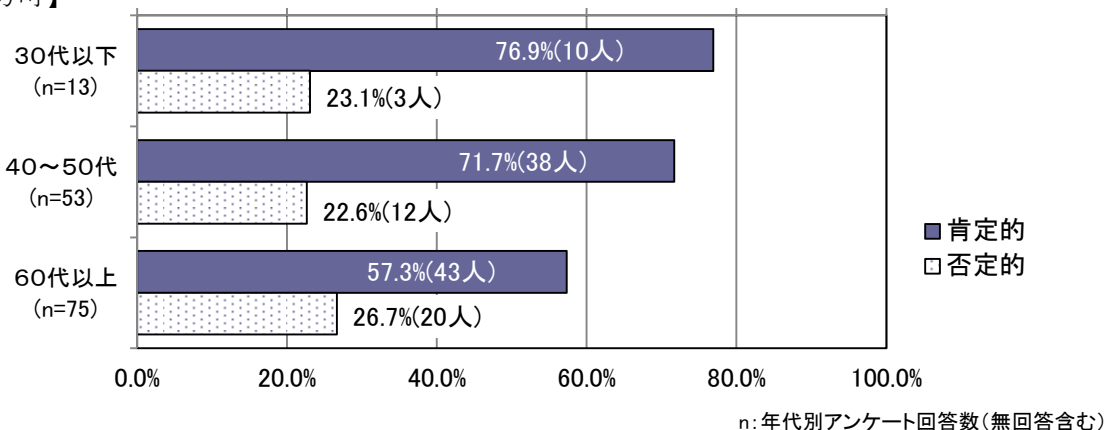
(6) 有事の際の対応

地区および年代別の肯定的、否定的回答割合を図 4-5 に示す。

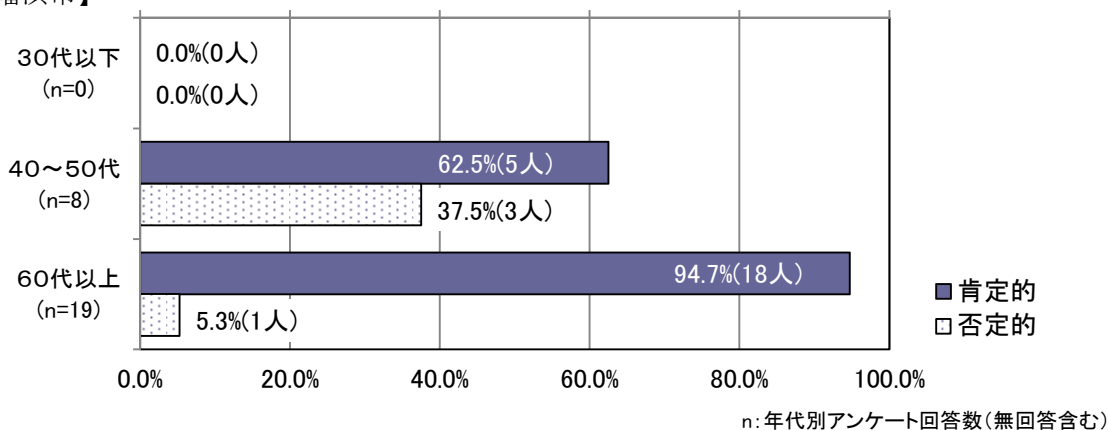
八幡浜市の 40～50 代の否定的回答の割合が高い傾向になっている。

図 4-6 地区および年代別の肯定的、否定的回答割合

【伊方町】



【八幡浜市】



主な否定的意見を以下に示す。

- ・ 原発の事故状況 197号線の通行可否、地区内の通行状況が不安です。(伊方町)
- ・ 道路の災害、港湾岸壁の破損、大量の人と車で混雑する。(伊方町)
- ・ 老人、子供、体の不自由な方などは難しいと思う。(伊方町)
- ・ 多くの住民が一時移転とかすとなると、なかなか難しいと思います。高齢者も多くなっているののでしっかりとした組織が必要だと思います。(八幡浜市)
- ・ 訓練のように落ち着いて行動するのは難しい。道路は、交通量も多くなり、今回以上に時間がかかるように感じる。(伊方町)

これらの否定的な意見から判断した課題および改善策を表 4-6 に示す。

表 4-6 有事の際の対応に関する課題および改善策

No.	課題	改善策
1	避難道路が不安 渋滞が不安 高齢者が多く不安	・ <b>避難計画の見直し</b> 住民からの意見(声)を取り入れた避難計画への見直しを推奨する。
2	有事の際には訓練と同じような行動はとれない	・ <b>避難訓練の継続実施</b> 有事の際にも対応できるように、継続的な避難訓練の実施を推奨する。

#### 4. 4 自由意見についての分析及び改善提案

##### (1) 訓練参加者

- ① 平日の訓練であったため、若年層の参加が少なく、高齢者が多い訓練であった。また、女性の参加者が少ない傾向が見られた。今後は、若年層および女性が参加できるような取組みが必要であると考ええる。

##### (2) 避難計画に関して

- ① 住民の約4割が愛媛県広域避難計画を読んだことがあるとの回答であり、避難に対する関心の高さが伺える。また、避難方法（避難先、避難ルート等）も約9割以上の住民が理解しており、非常に防災意識が高いと考える。
- ② 住民からは、避難手段、避難ルートに対する不安の意見が多くあげられており、住民の意見を取り入れた避難計画の再検討も必要ではないかと考える。

##### (3) 住民への情報伝達

- ① 住民への情報伝達手段は「防災行政無線」が主流であるが、今回は「緊急情報メールサービス」と回答する住民も多く見られた。「緊急情報メールサービス」は有効な報提供手段になっていくのではないかと考える。

##### (4) 避難訓練

- ① 住民の約9割が「できた」と回答しており、今回の避難訓練は良好であったと考える。
- ② 自由意見にも多く意見が出されているが、住民は有事の時に対応できるような訓練の継続実施を求めていると、継続的な訓練の実施が必要であると考ええる。
- ③ 想定外の被害があった場合、決められた通りには進まないなど訓練を懐疑的に思っている住民もおり、多様な状況を想定した訓練も必要ではないかと考える。
- ④ 訓練時にマスクが多く気になったとの意見があり、マスク対応も改善が必要と考える。

##### (5) 避難所等の運営

- ① 「適切であった」との意見が多数であるが、運営に関する課題（マイクの準備、住民への情報提供手段等）もいくつか挙げられており、改善が必要と考えられる。

##### (6) いざという時の備え

- ① 住民の防災意識は高いが、食料・飲料等の準備をしていない住民が4割程度おり、食料・飲料等の備蓄の推奨が必要と考えられる。

##### (7) 今後の取り組み

- ① 住民アンケートからは、今回の訓練は良好であったことが伺える。  
一方、有事の際に今回と同じ行動がとれるのか、避難計画は大丈夫か等の不安の声が多くあげられている。これら住民の不安を解消する取り組み（現実の状況に即した定期的な訓練、住民を対象とした防災教育、避難計画の改善等）を実施していくことが望まれる。

## 5. 総評

住民アンケート結果を分析すると、全体的に良好であったと思われる。

しかし、良好な中でも、一時集結所や避難所の運営に不満、避難計画（避難ルート・避難手段）が不安との意見があげられている。

一時集結所や避難所の運営に関しては、避難者に配慮した運営が必要である。一時集結所や避難所の運営マニュアルを作成し、運営担当となる職員への継続的な教育をすることで改善可能であると考ええる。また、資機材に対する不満も一部あがっており、必要な資機材の設置を望む。

避難計画に関しては、避難ルート、避難手段、交通渋滞等住民から多くの不安であるとの意見があげられている。住民の意見を取り入れた避難計画の再検討も必要ではないかと考える。

また、多くの住民から、継続した避難訓練が必要との声もあがっており、継続した住民避難訓練の実施、住民を対象とした防災教育の実施等を行っていくことを推奨する。

以上